

八重垣神社祇園祭フォトコンテスト 総評・優秀作品講評

◆総評

今年度も優秀な応募作品が沢山集まりました。5人により厳正に審査を行いました。八重垣神社祇園祭をいろんな視点から撮った作品が多く見られました。女神輿の作品が例年より多く寄せられたのも今回の特徴でした。

コンテストを通じて感じましたのはピントが甘い、露出がオーバーであったり逆にアンダーな暗い写真があったり、色合いが不自然なものが見受けられました。デジタルになってからいろんな機能が出てきましたが自然の色合いが出ていることが大事であると考えています。ホワイトバランスの使い方をよく考えて欲しい作品も何点かありました。またフラッシュの光量が強すぎて不自然な明るさの作品もありました。

作品づくりでは何を写したいかが作品から良く伝わってくるのが大事です。人物を入れた作品では表情が豊かであることが求められます。

どの作品でも人の目を引き付ける作品、長く見続けることが出来る作品は、当然ですが評価が高くなります。そのためには被写体が魅力的であること、被写体をよく知って写していくことが大事になります。

◆優秀作品講評

最優秀賞 「涼」 滑方 清 様

神輿にいったんに水が降り注がれる様子を、黄金色に輝くように美しく写し撮られました。とても美しく、厳かに写し撮られた、見事な作品です。思い切って神輿に集中して、狙いを定めたことが良かったです。作品づくりでは何を写したいかが画面から写しだされることが大事です。シャッタースピードが良かったです。水の様子を花火が降り注ぐような独特の作品に仕上げられました。ホワイトバランスが晴天モード？で撮られているのかと思いますが色合いを黄金色にしたことがこの作品をより効果的に見せることにつながりました。やや遅いシャッタースピードにもかかわらず、しっかりしたピントで撮れたことが作品に力を出すことにつながりました。



優秀賞 「まだ まだ これから！！」 中根 英治 様

祭りの雰囲気良く伝わる作品です。びっしょりになった男衆の気合がこもった光景が良く写し込まれました。作者の写す狙いが良く伝わる作品です。祭りが好きでたまらないといった雰囲気が出た作品でもあります。



広角レンズは近づいて写すことで被写体を大きく写すことが出来ることをよく理解して撮影されました。カメラやレンズの機能をよく理解して写していくことで視点の違う作品につなげられます。この作品で見逃してはいけない重要なポイントがあります。左上に写しこまれた人達が脇役としての働きをしています。主役の存在があり、それをより効果的に見せることが大事になります。脇役を入れることで作品にストーリー性が生まれて、長く見せる作品につながります。

優秀賞 「お祭り大好き」 竹内 朗 様

楽しくて楽しくてしょうがない・・・そんな雰囲気が強く感じられる作品です。毎年神輿が担げる幸せを見る者に伝える作品です。スナップ写真は顔の表情が豊かであることが大事なわけですが良い瞬間を写し撮られました。右側の元気な男性もこの作品の脇役として大きな効果を出すことが出来ました。この男性がいない画面ではやや物足りない作品につながりました。右の男性を入れて写そうとした作者の確かな目と作品づくりの力量を感じさせる作品です。脇役の存在がこの作品をより効果的にしました。



優秀賞 「ベテラン主役」 木村 茂男 様



誰もが引き込まれる作品です。この男性の持っている男らしい魅力溢れる被写体を思い切って近づいてこれでもかというくらい大きく写し撮られました。ポイントを絞って写すことで作者の思いも伝わるし、作品を見る方にとっても引き込まれる作品につながりました。日焼けした顔、濡れた顔や腕、髭をはやしたきっぷの良さ、作品を見ていく中で想像をめぐらせて見せることが出来ました。

良い被写体が良い作品につながります。この八重垣神社の祭りを何回も写されているのでしょう。よく知って写されている感じが致します。

陽が高い位置にありますますが顔に明暗が良く出ていて、立体感のある作品にもつながりました。写真は光をいかに利用して写すことが出来るかが大事な要素になることを教えてくれている作品です。

優秀賞 「元気いっぱい」 磯部 博之 様

女神輿の先頭で担ぎ、祭大好きよ！この恰好をうつしてよ！そう彼女が言っているようで元気がはち切れそうな楽しさ溢れる作品です。彼女に声を掛けながら写しているのでしょう。カメラマンと被写体との心が一体となって写し撮った作品です。両手を広げ、足を曲げながら、お囃子に合わせて踊っている、動きを感じさせる作品と同時に彼女の笑顔とが相まって見事な明るい作品につながられました。良い作品です。

やや露出がオーバーで明るいプリントになっていることが惜しまれます。綺麗な露出であればもっと画面が引き締まり、より効果的な作品につながったでしょう。



優秀賞

「威風堂々」

南波 靖一郎 様



神輿の美しさと気高さを引き出すように望遠レンズで思い切って神輿だけにポイントを絞られ写し撮られました。背景をぼかしながら神輿を浮き上がらせました。背景に写しこませた提灯が効いています。画面の静かさを感じさせる作品の中に提灯が大きな脇役としての働きを感じさせることが出来ました。品のある作品です。右側に柱のような暗い部分がありますがこの暗い部分はカットしたほうが良かったようです。暗い部分にも目が

行きやすくなりややもったいない感じがします。トリミングしても良かったでしょう。神輿だけに絞ってフレーミングされたことで品のある、作者の意図が良く伝わる作品につながられました。

入選

「楽しくワッショイ」

赤田 秀子 様

逆光線を利用しながら女神輿を担ぐ光景をアップで写し撮られました。逆光線の美しさを強く感じさせることが出来た作品です。写真は光であることをよく理解して写し撮られました。高速シャッタースピードによる水玉が美しいです。女性たちの笑顔が素敵です。女性たちの笑顔をもっと生かすように写したいところです。女性たちの顔の部分が暗くなってしまったのは惜しまれます。より生き生きとした楽しさ溢れる作品につなげたかったです。被写体までの距離がどのくらいの距離であるかわかり



ませんがフラッシュを使っても良かったようです。内臓フラッシュでも2mから2.5m位まではフラッシュの光が届きます。必要によってはフラッシュを使ってもみます。

入選 「祭りの華」 瀬宮 一二 様

画面の中心に、ポイントにした女性の神輿を担ぐ姿を思い切って近づいて写し撮られました。良い表情をした瞬間を写し撮られました。しっかりとしたピントでも撮れていて作者の意図が出た作品でしょう！うまく写し撮られました。フラッシュを使っているようで顔や左手が露出オーバーになってしまったのは惜しまれます。周りが暗いことでフラッシュが働いたのでしょうか・・・。

どのくらいの暗さであったかわかりませんが場合によってはフラッシュを発光禁止にして写してもいいでしょう。使わないで写すことも考えてみます。フラッシュを使う場合にはフラッシュの光を弱く、調光補正をマイナスにして写すと左手や顔が白くならず済んだでしょう。フラッシュがフル発光の場合で近い場合には、べたっとした作品になりがちです。デジタルカメラはISO感度を高くして写せる、暗いところでもかなり写せますので試してみます。



入選 「砂原女神会」 菅谷 きぬ子 様



望遠レンズで女神輿を担ぐ姿をアップで写し撮ったことで、迫力のある作品につながられました。先頭を担ぐ女性の力強さを感じ取ることが出来ました。神輿と女性たちを凡そ等分に入れて画面を作りました。このように画面を作る写し方もありますが、どちらを写したいのかが画面から出るようにすることで、より作品としての強さと、人を引き付ける作品につながります。神輿を担ぐ人達を画面いっぱいにしてもいいでしょう。半纏を着ていることで祭りの事はわかりますから、何を写したいかが良く伝わるのが作品づくりでは大事になります。

入選

「神社デビュー」

宮崎 昭光 様



祭り日のひとつの光景、子供さんと一緒に階段を上っていく姿を写し撮りました。祭り日に神社に参拝する後ろ姿に将来に託す光景にもつながっていく姿にも見えます。階段を一生懸命に上っていく姿が足の動きにも感じ取ることが出来ます。

何気ない光景ですが、祭りは多くの人達がかかわって成り立っています。神輿がメインであるかもしれませんが……。よいところをスナップされました。このような作品は他の作品と組み合わせ、組み写真として一枚と考えるとより生きてくると考えます。

親の子供に対する慈しみと優しさを感じ取ることが出来ます。やや画面の上部の暗い部分は多いように感じます。

入選

「最高潮」

相原 光男 様

大勢の人達が見守る中、神輿を持ち上げ氣勢を上げているであろう、そんな光景が良く伝わってくる作品です。祭りの熱気を感じ取ることが出来た作品です。作品タイトルにも作者の感じ取った祭りの光景が伝わってまいります。

多くの人達が後ろ姿で神輿を見ていることで作品からやや物足りなさを感じます。この場面ではこの撮り方になってしまうのですが……。思い切って後ろ姿の人達を少なくしてより望遠レンズ



で神輿を中心にしながら、左奥の人達と水掛の姿を入れた画面でも写してみたいところです。

入選 「延々と」 伴野 勝彦 様

祭りに繰り出した多くの人達を画面いっぱいに入れて写し撮りました。準広角レンズにより奥行き感を引き出すことが出来ました。横笛を吹きながら進んでくる人たちを前景に入れて画面を作ったのも結構でした。

気になったのが横笛を吹いている人達の色合いが気になりました。何か工夫されたのでしょうか？自然な色合いを出すことが出来るとよいと感じます。自分プリントされたのでしょうか、カメラ店にお願いすると綺麗な色プリントに仕上がったかもしれません。手前と奥側との色の違いが強くと出てると違和感が出てしまい良い作品が潰れてしまいます。



入選 「渾身」 水島 脩行 様

高速シャッタースピードで飛沫の美しさと、男衆が渾身の力を込めて神輿を持ち上げている様子を、思い切ってアップで写し撮った力強い作品です。違う視点から写し撮った印象的な作品です。カメラマンにも水が降りかかっている中で写し撮っているようです。良い作品に



つなげるには思い切って写していく姿勢が大事になります。でも何か物足りなさを感じます。

後ろ姿の男性の姿が画面の中では大きすぎる、背中から何かを感じられるとこれでもよかったでしょうが・・・。また、右側の暗い部分が余分なようです。左側を中心にして縦位置構図で画面を作っていくようにトリミングしてもいいでしょう。男性の存在を少なくなるように考えてみます。そう考えます。

入選 「お清の水」 君塚 義美 様

いい光景をスナップされました。子供たちが水を掛けられ嬉しがっている光景を、周りの大人たちが見ている光景はほのぼのとした光景でもあり良い作品です。大人たちの笑顔がいいです。水を掛けられてはたまらないということで逃げ出す子供がいたりして、大人も子供も年に一度の祭りを本当に楽しんでいる光景は微笑ましいです。

大人の人達の視線が水を掛けられている子供に集まり画面を引き締めております。

より効果的なシーンもあったかもしれませんが。二人の子供さんに思い切って一斉に水を掛けられたような・・・もう少しインパクトがある作品ですとより良かったでしょう。



入選 「熱い男たち」 寺田 義明 様



思い切ってローアングルで神輿を担ぐ男衆を写し撮りました。写す角度を変えて写すことで新鮮な作品につながります。よく3Kという写真の基本があります。構図・撮影距離・角度を言います。良く考えて写されているのですが作品から表情が少ないです。背中を見せている男性の存在が強すぎるようです。違った角度やシーンを待って写したいと感じます。何を主役にして写したいかが良く感じるように画面を作っていくこと

が大事になります。熱い男たちの表情や動きが出る場面を写し撮りたいところです。

入選

「キャー！ 気持ち良い」

小森 治之 様

子供みこしを担ぎ終わったところでしょうか？子供達に一齐に水がかけられている光景をスナップされました。子供たちが一塊になっている、集まっているところに水が掛けられている光景に不思議さを感じさせる作品になりました。下を向いている姿で子供達の表情が分からないことで不思議さをより感じさせています。



作品タイトルですが、この不思議さを感じさせるようなタイトルになれば画面と一体となった作品につながり、作品がより生きてくると考えます。タイトルと写真が一体となり作品になってまいります。



◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944年山梨県生まれ。

1962年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、イギリスに駐在。

2001年ニコンカメラ販売(株)（現(株)ニコンイメージングジャパン）に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真通信添削指導などを務める。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001年7月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006年10月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数

